

2014 年度 E.FORUM 教師力アップ研修 「探究力をどう育成するか」 アンケート結果概要

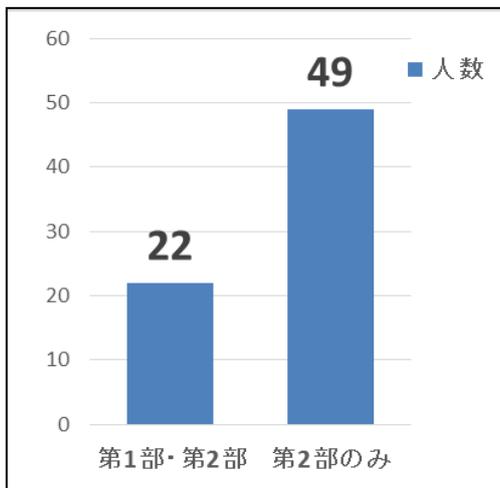
2015年3月28日(土)には、教師力アップ研修「探究力をどう育成するか」(第2部)の前に、「第10回実践交流会」(第1部)も実施いたしました。以下では、両研修終了後に行ったアンケートにおいて、受講者の皆様にご記入いただいた回答の概要をご紹介します。

1. 参加人数

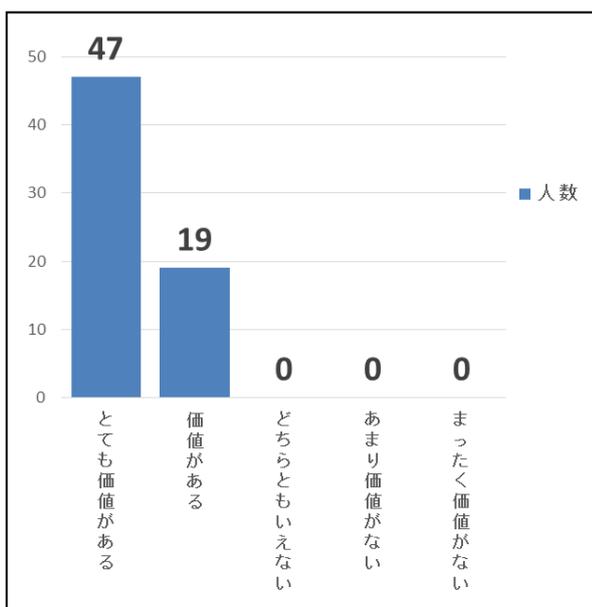
3月28日(土)

第1部 32名 / 第2部 103名

※アンケート回答者数 71名



2. 本日の研修に対する評価



3. 本研修に対するコメント(抜粋)

①自身にとっての成果

■参加者との実践交流

- ・ 他県の情報やよいアイデアをいっぱいもらいました。
- ・ 全国には、まだまだ教育に熱心な良い先生がいる事がわかりました。他の先生に負けないようにがんばりたいと思いました。
- ・ 自分の実践について、意見がいただけたこと。原稿化するための視点が定まってきた。
- ・ 自分が取り組んでみたい実践に出会えた。
- ・ 校種、教科は様々であったが、実践・取り組みをたくさん聞けたこと。
- ・ ラウンドスタディーの実施の報告が出来、今後継続する為のヒントが得られたこと。
- ・ 日本各地の方の教育実践に触れられたこと。
- ・ 実践した資料を見ていただき、いろいろな意見をいただけたことです。実践方法等の確認ができたのは、とても有意義でした。高校で求められる探究力についても考えていきたいと思えます。
- ・ 自分の実践にコメントをもらい、次の意欲につながった。他の方の実践から学ぶことが多く、やり方というよりも、その方の心意気・情熱に元気をもらった。
- ・ 他校、他者の実践を知ること、自らの実践の至らなさ、そしてこれからの展望を見ることができた。A先生の「こころ」の論文、B先生の読書指導は、特に示唆に富んでありがたかった。
- ・ ラウンドスタディーを実際に取り組みされた先生と交流できたことです。行う時の留意点を教えてもらえた。自分のイメージをこえる部分があり、新鮮だった。
- ・ どんな力をつけたいのかを明確にしないとルーブリックはつけれないこと。学習指導要領の読みとり方、北原先生の資料と提案を聞き、少しずつ理解できたように思う。
- ・ 今回も考える材料をたくさんいただき、人脈も広げるきっかけとなりました。
- ・ 高等学校における探究的な学習の実際について交流できたこと。
- ・ 課題はいっぱいあっても、様々なところで、同じ動きが起こっていることに元気をもらえました。
- ・ 自分の悩みを皆様と共有できたことです。
- ・ 各高校の取り組みや悩みがよくわかった。

■シンポジウム全体

- ・ 「探究力」というテーマで、「実践」、「カリキュラム・評価」、「思考方法(クリティカル・シンキング)」という様々な角度で捉えることができた。
- ・ クリティカルシンキング・教科の SGH 化・学習の姿・探究力を評価する際の観点について理解を深めることができたことです。
- ・ 「探究力」の言葉が魅力的でした。
- ・ 教育界の状態把握が少しできました。具体的な知識に関しては帰って資料を読むことで得られるような気がしています。
- ・ さまざまな立場で教育にかかわる方々の発表や意見を聞くことができた。
- ・ 生徒の探究力を育成するために、まず、探究力とは何か、また深まり、そして探究力をどのように伸ばし、評価していくのかがわかった。
- ・ 探究とは何かについて考えることができた。
- ・ 探究活動と評価について整理できた。
- ・ 「探究力」について、いろいろな考え方を聞くことができた。
- ・ アクティブ・ラーニングの生徒への影響力の大きさを感ぜられたこと。
- ・ 本校は正統的周辺参加論にもとづく異学年合同学習で1チーム3人で行っています。今年で6年目になりますが、年々よくなっています。これからも勉強させてください。

■クリティカルシンキング

- ・ 探究について考える(クリティカルにとらえる)時間をもてた。
- ・ クリティカル・シンキングの手法や思考を深めるための考え方の筋道や具体的な方法を簡潔に教えていただき、大変ありがたかったです。
- ・ クリティカルシンキングの作法。
- ・ 学び続ける生徒の育成に対してのヒントを得られることができました(「疑う」「論証図」など)。
- ・ 論理的に考える力を育てるとは、どういうことかを改めて原点に戻って考えてみるきっかけとなった。
- ・ クリシンについてすぐにでも生徒に実践したい話を聞いた。
- ・ 探究学習の柱となるクリティカルシンキングのイメージがはっきりしたこと。
- ・ critical thinking と詭弁
- ・ クリティカルシンキングのことがわかった。
- ・ 伊勢田先生の本、読んでみます。
- ・ クリティカルシンキングの手順を用いて、生徒に探究活動を行う上での基本的な物事に対する考え方を養うことができる。
- ・ クリティカルシンキングを改めて整理できた。
- ・ 思考を深めるとはどういうことか、クリティカルシンキングの手順を知ったこと。暗黙の前提を見つけ、吟味することの重要性に気づかされました。もう少し学んでみ

たいと思います。

- ・ 伊勢田先生のクリティカルシンキングの手順と吟味。
- ・ “クリティカルシンキング、思考を深めるとはということか”お話ありがとうございました。探究の時間を進めていく良いヒントになりました。私自身も勉強していきたいと思います。
- ・ 伊勢田先生→高校でも指導に取り入れられそうな可能性を感じました。
- ・ ”疑う！”

■SGHと探究学習の実践

- ・ 金沢大附属高校の山本先生、SGHによって生徒の成長の様子に加え、課題への改善案などのお話が聞けて、良かったです。
- ・ 予測できない課題に対して対応できる力はどのようにして形成できるか。金沢大学附属高校 山本吉次氏の事例のように SGH の取り組み、教科カリキュラムの SGH 化。
- ・ 山本先生→実践的な例を知ることができ、本校にもヒントになりました。
- ・ 山本先生の実践がとても参考になりました。
- ・ 金沢大学附属高校の山本吉次先生の発表で、生徒がどのように自主的に考えるようになっていくのか、どのようなことを取り組んでいっていいのかがよくわかった。
- ・ 高校での卒業研究の指導で研究テーマの設定について悩んでいたところであったので、テーマの深まり方について一つの型を知ることができた。
- ・ 特に SGH の中身を知れたことは興味深かった。
- ・ SGH や SSH などは、元からあった取り組みを統合していくことでスムーズにプログラムが完成していくということを改めて実感したこと。
- ・ 金沢大学附属は一般的だと思った。内容は普通。
- ・ 金大附属の SGH 実践を知れた(本校は SGH 申請中)。
- ・ SGH の実践例から、地域に密着した課題テーマや課題の探求方法を考えることができる。
- ・ SGH の他校の現状を知ることができた。
- ・ SGH の取り組みの具体的な成果について知ることができた。
- ・ SGH の取り組みについて具体的に聞くことができ、「探究」とどのように関わるか考えることができたこと。
- ・ SGH 実践校の具体的な手法と悩んでいるところ。
- ・ 探究の意義と深い地道な実践を知れたこと。
- ・ 探究学習の実践に触れられたこと。
- ・ 時間的な制約がある中、いかに上手く探究学習を実践していくかのヒントをいくつかもらうことができた。例えば、教科の連携、充実した検討会を持つなど。
- ・ 実践報告の中で、生徒の問いが深まっていく過程を聞くことができたこと。
- ・ 学校としての取り組み方の実践例を知ることができたこと。

- ・ 探究力の評価の観点のイメージが分かったこと。
- ・ 「探究力」育成のための具体的な実践を知ることができた。
- ・ 本校の実践している総合学習が自ら課題をみつけ探究する能力を育成し、自己形成をはかる内容なので、非常に参考になりました。
- ・ 探究力の必要性、内容、事例など自分のレベルよりかなり他校は進んでいることを実感した。
- ・ 探究活動の指導における検討会での声かけのサンプル。
- ・ 生徒の課題研究と指導していく上でのヒントがたくさん聞けたこと。
- ・ 探究学習の実践例を聞いた。
- ・ 「探究する力」を深めるにあたり、様々な方法があるとわかった。また新しいことを考えつものではなく、今まで進めてきたことを基に、さらに発展させることがわかった。
- ・ 「自分の中に問いがある」これが探究力の中心という言葉が印象に残った。
- ・ 教科にまたがって行っている実践、学年を越えて継続させていくもの、それらをもう一度きちんと整理して系統立ててみたいと思った。
- ・ カリキュラム編成に際しての長期的スパンを持つことの必要性

■パフォーマンス評価関連

- ・ 異校種のパフォーマンス評価の事例にふれ、妥当性、真正性、関連性、レディネスの大切さが改めて分かりました。真正な学びを生み出す課題、教材、単元、活動を目指すことに上記を生かしたいです。
- ・ パフォーマンス課題が子どもにとって必然性がある真正な課題であることと、先生のねらいが一体化していくとすばらしいと思いました。
- ・ パフォーマンス課題とルーブリック評価の具体例と実践について
- ・ パフォーマンス課題の設定について学ぶことができた。
- ・ 実践レベルでの「パフォーマンス評価」を聞くことができ、机上レベルでの課題や疑問が明らかになった部分があった。
- ・ 本質的な問いと永続的理解の考え方、ルーブリックの立て方が一方通行ではなく、何度も行ったり来たりして、検討を重ねていくこと。
- ・ 探究力の評価において、評価のサイクルやポートフォリオを実際に活用できる方法を考えるきっかけとなった点。
- ・ ポートフォリオ評価法のノウハウ
- ・ 小の総合の事例から、検討会についての具体が得られたこと。
- ・ 西岡先生のポートフォリオ検討会と課題の整理。
- ・ 西岡先生→探究的な学習の取り組みをどう指導するかを考えることができました。

■自己の振り返り

- ・ 自分の「問い」(課題)は何なのか？(教育者として)を考える良い機会になりました。現場にいらるのですが、現場にいらるがも大学院などで学びたいと強く感じました。
- ・ 今現在、自分の抱えている課題が明らかになったことと、解決に向けたヒントがいただけたことです。
- ・ 現在、職場で取り組んでいる授業改革とそのための課題学習を発展させていく方向性が見えました。探求から探究へ！(2015年度の指針)
- ・ パフォーマンス課題、学習評価の取組の成果と課題について、具体的な状況を聞いたこと。そして、自分自身の考えを外化することにより、課題が明らかになったり、考えが整理できたりしたこと。
- ・ 自分の中に問いがあることが原点であると認識できたこと。
- ・ 探究には色々な問題があるが、「問いかけ」が大切だと再認識できた。
- ・ 自身とこれまでの探究活動を振り返り、探究活動が目的にならないために、なぜ探究活動をするのかを見直す機会となりました。
- ・ 自分の中でぼんやりしていたものが、少し明確につながりが持てるようになりました(探究力・探究学習の意義・進め方について)。
- ・ 日々の教育実践にどう取り入れられるかを整理して考える機会となった。
- ・ 先生方の教育を変えようという熱意を感じ、自分の行う研究に需要がとてもあると感じました。
- ・ 資料を再確認して、思考を整理したいと思います。
- ・ 求められる社会的要求に応えながら、長いスパンで信念をもって、子どもと関わることがとても大切であると思いました。
- ・ 前向きに取り組んでいるからこそ、課題が明確になり、それに立ち向かうことが必要であると思いました。
- ・ 教科の中で次にやることを考えさせていただきました。
- ・ 校内研究・学校改善を推進する為のヒントをたくさんいただきました。

②自身にとっての今後の課題

■教科や課題研究の指導と評価

- ・ 目標と評価をあらためて丁寧に。
- ・ 教育手法と指導者の在り方(永遠の課題?)。
- ・ 問い→調べ活動→問い→調べ活動→問い(新たな問いをもって、さらに深めることは難しい。どのように指導・アドバイスするかを今、研究しています)。
- ・ 算数の学習における学び合いの導入と評価のあり方。
- ・ 発展的な学習へとつなげる以前の背景・知識不足やそもそも言語運用能力をどう身につけさせるか。
- ・ テーマを設定すること。疑問を持つこと。生涯にわた

って問いを持つこと。

- ・ 探究活動におけるFWをいかに充実させていくか。
- ・ 評価と生徒へのフィードバックをいかに充実させていくか。
- ・ 課題研究の指導力UP
- ・ 総合的な学習を中心として、各教科の内容や力について関連させることにより、教科においても「課題発見、解決学習」が成立できるような指導と評価について。
- ・ 総合的な学習や教科学習において学習者がどのように課題を発見するか、また指導者がどのように働きかけるか、という点です。
- ・ 数学科の授業での探究力育成
- ・ 卒業研究での探究力の評価
- ・ 学校全体として探究力を育成する取り組みをすることはなかなか難しいですが、せめて自分の担当する授業、自分が接する生徒の探究力、思考力のため、教科やさまざまな行事の中で取り組んでいきたいです。従来の教科書中心の教科教育だけの授業はもう成り立たないと感じております。
- ・ 大学講義の中での「探究力」育成。
- ・ ALをどう乗り越えていけるのか考えたい。
- ・ 探究活動を単なる「やってみた」から脱却させるにはどうすれば良いか？評価(=目標)の見定め？
- ・ 「探究」のsmall-step化
- ・ 来年度初めて課題研究の担当になるにあたり、テーマ設定がうまくできるか。生徒の調べ学習を通して見つけます。
- ・ 通常の授業での探究力の育成。
- ・ 課題研究の評価の仕方と分析の仕方
- ・ 探究力の定義と評価
- ・ 調べるから深めるへ進化させるためにはどうすればよいのか。
- ・ 探究学習の評価と指導の方法
- ・ 探究力をつける学習の取り組みを長い期間で考えたい。
- ・ 高校の課題研究の評価方法の研究。
- ・ 高校のすべての教科における授業のアクティブ・ラーニングについての研究。
- ・ 「探究力」とは何か、定義についてしっかりと考えていきたい。「探究力」生徒の成長の伸びをどう把握していくか。
- ・ 教員も生徒も力をつけていくために評価のあり方をどう型づくっていくか。

■パフォーマンス評価関連

- ・ 英語科における「パ評価と教材とレベルの関係」を整理すること、学校全体の探究型学習の創造が今後の課題です。
- ・ ルーブリックを用いたより具体的な評価を研究したいと思います(教科、課題研究において)。
- ・ 真正の評価についてももっともっと実践を行い、授業改善を行っていききたいです。

- ・ 真正な活動、文脈をつくる教材開発や単元構成の工夫を行うこと。
- ・ 包括的な「本質的な問い」の入れ子構造の検討
- ・ 探究力、科学する力、プロセス・方略に焦点化したルーブリックづくりと授業改善
- ・ ルーブリックの再検討、パ課題とパ評の再検討
- ・ 英語のライティングのパフォーマンス評価
- ・ アクティブ・ラーニング、パフォーマンス評価をさらに学び、実践したい。
- ・ ポートフォリオの卒業研究での実施→そこから6年間一貫のポートフォリオを構築したい。
- ・ “フィールドワーク”“体験”をどうパフォーマンス課題の中に取り込んでいくか。
- ・ 本校でも探究活動に取り組んでいて、ルーブリックによる評価に悩んでいるので、それについてもっと勉強したい。
- ・ ルーブリック作成等の研究を通して勉強していききたいと思えます。

■自己研鑽と教員養成、連携とコミュニケーション

- ・ 生徒に指導できる力の無さをいかに克服していくかが大きな課題です。
- ・ 過去の財産に頼ることなく、新たなものを生み出せるように、自身のモチベーションを維持すること。堀川のSSHの継続が内定し、小中高連携事業も継続が可能になりました。小・中を活性化して、京都市の学校教育に探究を浸透させたいと思えます。
- ・ 校内研究(現職研修)の充実の為の方法の模索。
- ・ 「探究力」を育成する教員をどう育てるか。
- ・ 「探究」のできる教員の養成。
- ・ パフォーマンス課題をつくる楽しさ、逆向き設計による授業(単元)デザインの必要性を多くの先生方に知っていただき、実感の伴った理解につなげること。
- ・ 「パフォーマンス評価」をどう大阪で取り組んでいくか(教師にどう意識づけし、意欲を高めること)。
- ・ SGHアソシエイト校の附属中学でできることをみつけ、校内の教育活動への提案を少しずつしていきたいと思えました。
- ・ 生徒・保護者・同僚とどのように話をして、アクティブ・ラーニングを進めていくか…。
- ・ 教員が探究活動を進める上で、教員の資質向上、チャレンジ、意欲の向上などなど。
- ・ 「21世紀型学校(教師)」とは、これらの創出が求められる。
- ・ SGH指定期間中の教員の力のつけ方
- ・ 学校全体を巻き込むために何をするか。
- ・ 校内・連携先とのコミュニケーション
- ・ ネットワークの構築
- ・ 自分と同じ校種・教科の先生方との出会いが少ない(パフォーマンス評価に取り組んでいる先生との)。

■実践の積み重ねと検証

- ・ 問題意識を焦点化して、再実践し、検証したいです。

→10年間、仮説・実践で終わっていたので、ふりかえって検証し、自分なりに体系化の中に位置づけられなにかまとめていきたい。

- ・ 調べ学習→探究活動に発展させた取り組みを実践する。
- ・ 生徒の変容の検証について
- ・ まだまだ実施がたりないと感じました。これからは、多くの実施を行い、具体的な資料を作っていきたいと思います。
- ・ ラウンドスタディーを研修に取り入れる。
- ・ 教育効果の理学的実証、まずは脳神経学のベーシックを学び、将来の進路(教育がらみの FMRI, PET 等の理学的手法を用いている研究学習)が確定できるように勉強していこうと思っている。

■カリキュラム開発

- ・ 地域の課題、その地域の課題を明らかにしていく。少子高齢化問題―衣食住。国際化の中で、どういっ社会を作っていかなければならないか、自分の役割とは何か。
- ・ 本校は SSH 指定 2 年目が終わろうとしています。カリキュラム開発の点でまだ課題を残していると言えます。本校のカリキュラム改善に今日学んだことを活かしたいと思います。具体的には、山本先生の発表にあった「教科の SGH 化」にあたるものを本校でも考えて提案してみたいと思います。
- ・ 付けるべき力を見すえ、その上で探究的学習単元をどのように組んでいくか、その評価をどのように行うべきか。
- ・ 総合的な学習の時間を再考し、カリキュラムを完成させる。来年度行う地域タイアップの学習(まちおこし)に生徒の取り組み方、私自身のその課題をどう生徒に生かしていくかを考えること。
- ・ 教科の SGH 化
- ・ 授業の中でスキルの部分の扱いが課題になる。＝評価・カリキュラム
- ・ 全教科の中でのアクティブ・ラーニングのあり方を考えること。
- ・ 教科の中に探究を入れ込むこと。
- ・ 一年間を見通した取り組み
- ・ 総合的な学習の時間と教科との環境をどのように促進していくかということが課題。

■進学保障、大学入試・高校入試との関連

- ・ 学習そのもののスタイルや学力観といったものは変化しているのに、それを客観的に評価することは、進路(進学)保障へとどうつなげていくのか。
- ・ 大学入試、高校入試と探究力との関連。
- ・ 入試とのバランスのとり方や、学習の進め方について研究を進める。
- ・ 受験体制とずれることがあっても、やらないというわけにはいかない分野であると感じ、推進するための障害を取り除かなければならないと感じた。

- ・ 進路保障との関係性。
- ・ “アクティブ・ラーニングで大学入試に対応できるか”という疑問も多く見られたが、やはり、大学の入試制度とも連携してこのような改革を進めていかないと意味がない。
- ・ 探究力をつけることが、どのように入試の力に結びつくか。

■求められる人材・人格形成と学力

- ・ グローバルリーダー→リーダーではなく、すべての生徒に問題解決力をつけてほしい。
- ・ 求められている人(材)を育てるのではなく、これからの社会を考えたときに、どういった力を育てるとよいかといった視点で「探究力」を捉えるきっかけになりました(西岡先生の人材ではなく、市民を育てるとするのは強く共感しました)。
- ・ 探究力と G リーダーの関係が不明確だった。これから求めていこうとしている資質能力と意思決定や判断力が人格形成にどう結びつけるのかといった点を考えていきたい。
- ・ 人格形成と学力との関連。
- ・ 自ら学ぶ姿勢を醸成するとはどういうことがを探りたい。

■その他

- ・ 生徒の自主性と教員の指導のバランスが難しい。
- ・ 教師の専門性(教科)をどう活かせるか(活かせないものは厳しい)。
- ・ 子どもたちが安心して“考えたり”“自立的に学ぶ”環境を私たちは追求すべき。山本先生、頑張ってください。
- ・ 現場の教員は日々の授業で何を気をつけていけばよいか。

③本研修の良かった点

■参加者との交流、自由闊達な議論

- ・ 実質的な話が遠慮なくできる。
- ・ 新しい出会いがうれしい。
- ・ 自由に互いを尊重しあいながらアドバイスできる雰囲気。
- ・ 他者の実践がじっくりと聞けて、質疑応答の時間もはっきりとれたので良かった。
- ・ 細かいことは各参加者に任せられ、自由がきく。
- ・ 研究(興味)の内容が近い人でグループをつくり、実践交流、協議できたこと。
- ・ 小グループで、じっくり話ができたことが良かったです。
- ・ お互いが学び合える雰囲気なのがとても良いと思います。
- ・ 実践内容について時間をかけて説明したり、多くの意見をいただけたことです。
- ・ 実践交流会はいろんなお話が聞けてよかったです。
- ・ 1日学びにひたれたこと。学ぶこと、触れること、語り合

うことが何より楽しかったです。

- ・ 午前中はテーマ別のグループワークがとても充実した時間となりました。グループの人数はベストです。
- ・ 参加者の交流が行われていること。質問が生まれやすい運営方法。
- ・ 色々な立場の方のお話を伺えてよかった。またお互いの考え方を尊重されていて、まとまりのある研修会だと思いました。
- ・ 小グループでの討議があった点
- ・ 参加者同士の話し合い
- ・ 全く異なる校種の先生方と話し合いができ、たいへん参考になりました。
- ・ 近隣の方との感想や質問を述べ合う時間がとれたのがよかったです。
- ・ 周りの先生と話す機会があったこと。
- ・ 議論できる時間をいただけたこと。
- ・ 質疑応答がスムーズでした。
- ・ 周囲の先生(他県・異種)とお話できたこと。
- ・ 聞く―話す―考える―討論といった場面が確保されていた。毎回、充実した気持ちで帰れるのが本研修会です。ありがとうございます。
- ・ フロアからの質問に答えてもらっていた点
- ・ グループディスカッションの機会があったこと。
- ・ 周りの参加者との交流ができた。先生方の交流の機会になるのではないかと、それがそれぞれの学校での実践につながるのだろうと思っています。
- ・ 参加者同士のディスカッション。
- ・ 全体討論で興味深い質問があり、充実していたと思いました。
- ・ 他校の先生方と話す機会があり、実践の成果を聞いたこと。それによって悩みを共有できたこと。
- ・ グループ討議があり、周りの方と話し合いができてよかったと思います。

■研修全体

- ・ 午前と午後でどちらも現在特に求められている「パフォーマンス評価」と「探究力」の内容を研修できて、すごく有意義でありました。
- ・ 実践発表があったこと。
- ・ 「探究力」というテーマをいろいろな視点から読みといていくところ。
- ・ 研究者と実践家の双方の発表が行われていたこと。
- ・ 講演内容(すばらしい中身)
- ・ 多くの先行事例の取組を知ることができたこと、共有できたことです。
- ・ 「探究力」の説明、具体的な高校での取り組み、中学校での総合学習という教科としての取り組みと、多角的なお話が聞けて、自分なりの進め方の方針を考えることができました。

■プログラム構成

- ・ 3人の講師の方の話は、たいへん参考になった。続けるの講演はこれしかないと思う。

- ・ 各々の講演者の方が個々の専門について重なりなく配されていたこと。
- ・ 講義と討論の両方があること。
- ・ シンポジウム&全体討論
- ・ 哲学的な問いから思考について問いからスタートしている。
- ・ 2部に分けたところ。レクチャーとグループでの話し合い→質疑応答
- ・ グループディスカッションの後に質問の時間を設けたこと。
- ・ 質問前にグループで話す時間があったこと。

■講演内容

- ・ クリティカルシンキング。
- ・ 思考について哲学の先生からの視点を聞くことができたのがよかった。
- ・ グローバル化という英語に目が向きがちですが、他教科と連携して進めていけることがわかった。
- ・ 実践事例を聞くことができたこと。それに対して、西岡先生の小学校の実践を取り入れたポートフォリオ評価の進め方が聞けたのがとても良かったです。
- ・ 西岡先生のお話が大変よかった。専門家の話は大変参考になった。

■時間配分

- ・ 時間が充分にあった。
- ・ 話す時間がゆったりあった。
- ・ 各登壇者の発表が20分とまとまっているため、中だるみすることなく拝聴できました。
- ・ 発表時間が予定より長くなったが、長くなったので、いろいろなことを聞けたのが良かった。

■その他

- ・ シンポジウムでのパワーポイントの資料の配付
- ・ 内容が自分にとって良し悪しではないと考えて、今回の形式でいいと思います。

④本研修の改善すべき点

■プログラム構成

- ・ グループで話し合うのもいいですが、講師の先生のお話を伺う時間が多い方がうれしいです。
- ・ 先生方からのお話の時間をもう少しとってほしかった。具体例などについて時間をかけて説明いただけると理解が深まるのでは。
- ・ 時間設定をもう少し考えてもらい、フロアからの質問をもっと吸い上げられる形を作ってもらえたらよかった。
- ・ 意見交流の時間が長い方が良いですね。
- ・ 失敗と反省をくりかえす実践から探究力を定義する等、議論をとまなう時間の設定を。(例:最後の西岡先生の話)

■講演内容

- ・ 西岡先生、伊勢田先生の話はよかった。学習方法を変えたい。
- ・ 探究力をつける段階的指導をもう少し詳しく聞いた

かったです。本校では、条件を制御する力、変数に着目する力、データ数を見抜く力などをやっています。

■グループディスカッション後の情報共有

- ・ 全体のふりかえりが欲しかった(他のグループで何が議論されたのか知りたかった)
- ・ 最後にどのような学びがあったのかについてグループ交流ができると良いと思いました。他のグループでの協議内容が知りたかったので。

■時間配分、時間不足

- ・ 午前の部の時間配分が無計画であった。後半の方について、時間が十分とれなくて残念だった(最初に確認し忘れた)。
- ・ やはり時間が押すので、ゆったり時間の枠があると良いと思います。
- ・ 午前も午後も時間が足りないと思いました。
- ・ もう少し時間がほしいと思います。
- ・ グループでの話のテーマがはっきりしなかった。時間も不足していた。
- ・ グループディスカッションの時間をもっと長くしてほしいと思った。終了時間は18:00頃でもよいと思いました。
- ・ 時間配分が大切ですね。でも、いい話が聞けてよかったです。
- ・ もう少し時間設定を長くする。
- ・ やはり時間が足りなかったことでしょうか…。
- ・ 仕方ないことですが、登壇者の持ち時間がオーバーしたこと。
- ・ 時間の都合は、やむを得ないと思いますが、全体討論の時間ももっとあればと思いました。
- ・ グループで質疑応答をする時間が短かった。
- ・ 他の先生方との話し合いの時間がもう少しほしかったです。
- ・ 自分が勉強不足ですが、基本的な知識が不足していてスピードについていけませんでした。

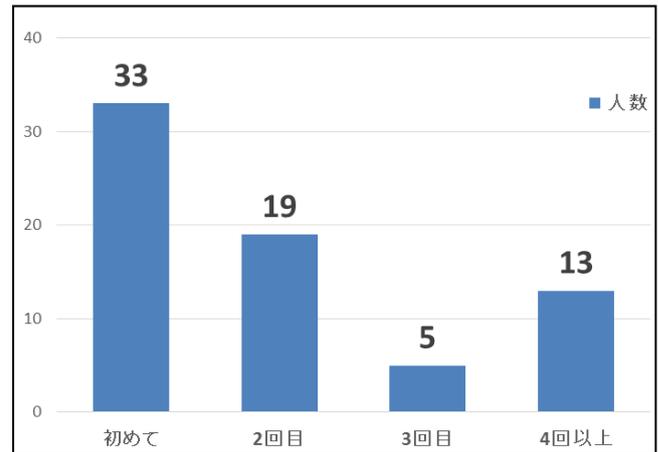
■会場の狭さ

- ・ 強いて言えば、より快適な教室を、ということでしょうか。
- ・ 会場がもう少し広ければ話し合いの時にしやすかったように感じる。
- ・ ペア等の話は、会場がせまくて音声が混ざってやりにくかった。
- ・ 会場が狭いのでディスカッションに少し支障を感じた。

■その他

- ・ 非常に学べたものが多い研修でした。
- ・ 論点が曖昧であった。

4. 回答者の E.FORUM 研修への参加回数



5. E. FORUM へのご意見・ご要望・ご提案(抜粋)

■扱って欲しいテーマ

- ・ 次回は資質と能力、評価などの学びをしたいです。
- ・ 「問い」を生み出すための仕掛け、実践、そこから生まれた課題等についての議論等ができればよいですね。
- ・ 小・中・高、各年齢・校種・発達段階で問い、課題のあり方をどうめざすかを研究しています。めざすところに到達しない生徒にどうゴールへ導くかーの方法も議論したいです。
- ・ SGH、SSH に関すること。
- ・ 「探究力」や「創造性」等を育成する具体的授業支援、有効なルーブリックについてなどがあれば、教えていただきたいです。
- ・ ぜひ今後も探究とカリキュラムについてお願いします。また教科ごとの実践報告、研修とを充実させていただければありがたいです。
- ・ 夏の研修会で、伊勢田先生の講話をもう一度ゆっくり聞きたいです。
- ・ 評価法、スタンダードベースドアセスメントについての研究
- ・ 生徒の意欲や能力の検証方法を勉強したいです。
- ・ 評価方法、基準、成績のつけ方をどうするのかの実践を知りたい。
- ・ 教師へのアプローチ(どう学ぶか、研修)について。
- ・ 高校の実践家を継続して呼んでいただきたい。
- ・ 課題の設定方法や評価についての実践例がわかればうれしいです。
- ・ 道徳をどうするか？(高校での方向性も含め)全面主義のことも考えると、他教科・科目と特活との関係性も無視できない。
- ・ 2015 年度から本校では、教育学科を開校します。教員になりたい生徒を高校生段階で育てる重要なポイントなど知りたいです。
- ・ 高校のすべての教科・科目におけるアクティブ・ラーニングについての研修。

- ・ (もしかすると、実践交流会では行われているのかもしれませんが)より具体的な例に即したルーブリック作成などのワークショップを行えればと思います。

■交流会・研修等の開催

- ・ 校内研究担当者(研究主任)が集まって話す機会があるととてもうれしいです。
- ・ 実践事例(具体)と理論研究、両方を研修できるシステムを続けてほしいです。
- ・ ゆっくりした時間で(できれば2日間にわたって)研修を企画してほしい。
- ・ こんな学習会をまた開いて欲しい。8月1日また受講したい。

■登壇者の先生方へ

- ・ 探究力が身についたかどうか…評価の観点(PPTでは5つ示されていました)それぞれのルーブリックを作成することで見取るという考え方で良いのでしょうか(西岡先生への質問)。
- ・ 西岡先生、Ubdについて詳しく解説していただきたい。
- ・ 山本先生へ、生徒を海外にまで連れて行くだけの必要があるのか?(スカイプもある)という質問がありましたが、これに対しては、大いにその必要が…というよりは、その成果があると思います。私は現在、A附属中に勤務していますが、昨年度まではB中学校で帰国生徒教育を担当しておりました。50名近い帰国生徒がいる学校でしたが、海外で実際に生活してきた生徒たちの多文化を受け入れる心、大いなる好奇心など、日本にしかない生徒にはない多くの長所がありました。実際に海外で人と接することの大切さは言うまでもありません。本日はありがとうございました。

■要望・提案

- ・ 問題ごとにワーキングの時間があれば、内容が深まってくれと思いました。例:クリティカルシンキングの手法、SGHと学校活性化、探究学習、カリキュラムと評価。
- ・ 質問はディスカッションの後 or プレゼンの後、事前に紙に書いて提出して、同じようなものをまとめて話していただくのもよいのでは?
- ・ 実践交流会において、あと1つでいいので、他のグループでも交流できたらと思いました。
- ・ 子安先生のご挨拶文の中の「21世紀の学習者」の定義が明確でよかった。ぜひ参考にしたいのですが、E.FORUMのサイトなどでみることができますか。
- ・ 申し込みフォーム(web上)があれば、ありがたく存じます。

■メッセージ、その他

- ・ 探究学習の指導にすごい設備、協力者、労力をかけているようですが、学生の出した結果(高校)を見た時にレベルが低すぎると感じました。探究学習をさせるのは良いとして、正課外の学習・当人の経験等が明らかに不足していると思われます。
- ・ 次も来たいと思える研修会でした。ありがとうございました。

した。

- ・ 毎年楽しみにしています!西岡先生、お忙しいのにいつもありがとうございます。
- ・ お忙しい中、無理をいって参加させていただき、大変多くの参考になりました。ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。
- ・ 先生方のお話を聞き、10年間をふりかえって、自分を見つめ、問い直し、今後の自分の問題意識をはっきりとさせたいです。また、論文にもチャレンジしようと思いました。
- ・ 最近読んだ本に『考える技術・書く技術』というものがあります。まさにロジカルシンキングでした。これが大切なのだという事がわかった気がします。
- ・ いつも京都大学の先生のお話も聞けて、他の専門の方の話も聞けて、勉強になります。今後もよろしく願いいたします。
- ・ 大変お世話になっております。若手のリーダーや探究活動に意欲的な方に席を譲るべきところを、のこのことやって来てしまいました。堀川はIBの研究指定で学んだ評価法を実践中です。これからもご指導よろしく願いいたします。
- ・ 今後の教育改革と歩調をあわせた研修会であり、毎回参考になることがたくさんあります。これからもよろしく願いいたします。